

—病院理念— 「愛し愛される病院」

—基本指針—

- 1、私たちは、患者様、ご家族に「おもいやり」をもって接します。
- 1、私たちは、地域に信頼され貢献できる医療を提供いたします。
- 1、私たちは、患者様の在宅復帰を支援いたします。
- 1、私たちは、診療記録を正確に記載いたします。
- 1、私たちは、自己研鑽しよりよい病院を目指します。

【患者様の権利】

- 1、患者様は医療に関する説明を十分受けた上で、治療を受ける権利又は拒否する権利が有ります
- 2、患者様は医師、医療従事者が患者様の知り得た個人情報を守られる権利が有ります
- 3、患者様は病院、医師を自由に選ぶ権利が有ります
- 4、患者様は安全で適切な医療を平等に受ける権利が有ります
- 5、患者様は診療録の開示を求める権利が有ります

入職のご挨拶

平成 26 年 4 月 28 日より勤務させていただいている山崎裕功です。

3 月まで保健医療学部の教務をしておりましたが、この度、機会を得て、自宅から程近い杉並リハビリテーション病院に勤務させていただくことになりました。

専門は整形外科とリハビリテーション医学で、脊髄損傷、四肢切断、変形性関節症、義肢・装具、老年疾患などを主に担当してきました。ところで、今の超高年齢化社会の日本では、これから社会全体が高齢者の健康とどう向きあっていくかが大きな関心事であり避けて通れません。私は医療人として、今後健康な老人づくりに寄与できたらと考えています。



やまざき ひろのり
医師 山崎 裕功

これまで指針としては

- (1) 現在の健康レベルを維持するこつを各個人に持ってもらい、家族地域単位で支援する
- (2) 現在介護状態や疾病治療中の人には、今の健康維持を図る周囲の善意を尊重する
- (3) 生きる意志をもち、介護支援を受容する人には、健康共有を図る社会の流れにいれるを考えましたが、立ち位置の確保が前提でした。

回復期リハビリ病院という特化した環境では他職種の方々との連携が特に重視されますので、これまでの経験に加えて地域社会の医療や福祉に貢献できればと考えております。どうぞよろしくお願い致します。

病院機能評価認定病院更新審査

さる7月15日(火)・16日(水)と日本医療機能評価機構による、病院機能評価認定病院の更新審査がありました。

当院は平成21年3月16日に認定病院となり、当時は500項目からなる「統合版評価項目V5.0」で、さながら“医療監視”の様相を呈しており大変苦労した記憶がございますが、平成25年度より医療機能評価機構の評価項目が一新。より病院の特性に応じた、患者さま目線に立った「症例トレース」型での審査となりました。

今回「主としてリハビリテーション医療を担う病院」の種別にて2日間の更新審査を受け、更に翌17日(木)には付加機能として回復期リハビリテーション機能の評価も合わせての受審となりました。日頃より実施しているチーム医療の要となる合同カンファレンス等、我々の持つ機能は充分評価していただけたと感じております。

機能評価の更新審査はその都度ひとつの通過点に過ぎません。激動の医療界において常に患者さま・ご家族さまのニーズに応え続けることが我々の使命と考え、今後も地域の皆さまに愛し愛される病院でありたいと、再認識させられる更新審査となりました。

看護部長 そのだ のりみ
園田 祝美



Your Smile, Our Happiness!! ~リハビリテーション科紹介~

リハビリテーション科の特徴は、何と言っても人数が多いことです。回復期に集中的リハビリテーションを提供するため、理学療法士(PT)48名、作業療法士(OT)28名、言語聴覚士(ST)9名、事務・助手6名、総勢91名が所属し、365日、一人の患者様に平均8単位/日のリハビリテーションを提供。理念として『Your Smile, Our Happiness』を掲げ、患者様・ご家族が笑顔になって頂けるよう最善を尽くしています。

100%紹介入院であることから、入院前に担当セラピストを決定し、入院初日のスクリーニング検査から担当者が同行、入院時訪問などで在宅復帰に向けた環境調査も早い段階で行います。患者様・ご家族と共に目指すゴールに向かって、PTは移動能力の改善、OTはトイレ動作能力の改善、STは摂食嚥下とコミュニケーション能力改善に主眼をおいた専門的療法を展開しています。



また、(株)アビリティーズ・ケアネットとの協同により、入院患者様に個別対応できる福祉機器の利用も特徴の一つです。

退院後の支援として、外来リハビリテーションや訪問リハビリテーションも実施しています。

リハビリテーション科 科長
理学療法士 ほしば たつし
干場 電志

医療安全対策委員会の取り組み 転倒転落対策チームの活動

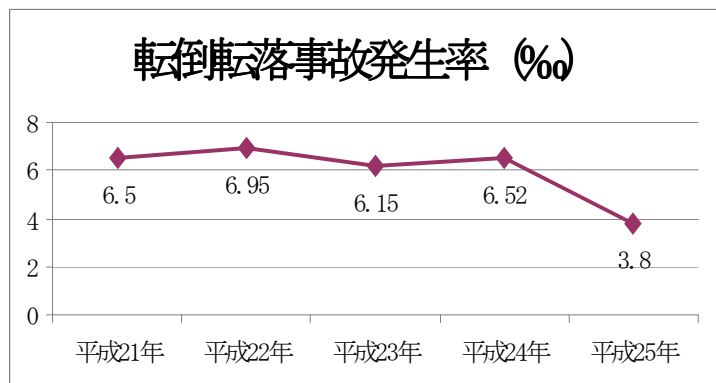


当院では、医療安全対策の一環として「転倒転落予防チーム」を結成しました。活動内容は転倒転落事例が発生した際、チームメンバーが集結し現場検証から始まり原因分析及対策をその場で検討しています。その構成メンバーは、リハビリ医師・理学療法士・作業療法士・看護師・介護士からなり、それぞれの専門的立場から意見を出し合い再発防止に努めています。

例年、当院におけるインシデント・アクシデントレポート（ヒヤリハットを含む）は、30～40%が転倒転落に関する内容でした。転倒転落予防チームの活動を開始した昨年度は、その割合が21%と大幅に減少し事故発生率も過去5年間で最も低くなりました。（図1「発生率」参照）

一つ一つの事例を多職種で検証することで、環境の設定・機能面での問題・福祉用具の適応・介助技術に関する問題・ADL・訓練内容など多方面からの取り組みができるようになりました。機能が回復すると共に転倒転落の発生リスクも高まります。転倒転落予防チームは、在宅環境を考慮し事故に繋がらないよう予防活動を続けていきます。

医療安全管理者
看護師 ^{かとう} 加藤 まゆみ



(図1)

病院からのお知らせ 第56回全日本病院学会in福岡

第56回 全日本病院学会が9月20日（土）・21日（日）の2日間、黒田官兵衛ゆかりの福岡県はヒルトンホテル福岡シーホークにて開催されました。メインテーマは「病院医療をプライマリ・ケアの現場から考える～地域の未来を診療所とともに～」。

地域医療への更なる貢献を掲げ、当院からは3題の演題発表をいたしました。

特にリハビリテーション科から発表の演題『円滑に在宅復帰へ繋げていくために情報共有』では、患者さまを軸に今後更なる充実が必要となる地域包括ケアシステムの中で我々回復期リハからケアマネージャー（介護保険領域）に申し送る退院時リハビリサマリーに着目し、より退院後の生活を想定したケアプランが立案できるよう外泊時の様子を詳細に加えたものを作成した取り組みの報告となりました。

今後、この取り組みは医師・看護師他へ拡大させ、更に地域に信頼され貢献できる医療の提供につとめる所存です。

1. 「円滑に在宅復帰へ繋げていくために情報共有 ～リハビリサマリーに着目して～」

筆頭発表者：リハビリテーション科・関恭佑（理学療法士）

2. 「回復期リハビリ病棟における効果的な情報共有 ～MSWの記録の工夫～」

筆頭発表者：地域連携室・廣川里美（社会福祉士）

3. 「当院における入院患者他医療機関受診への対応」

筆頭発表者：医事課・最上高宏

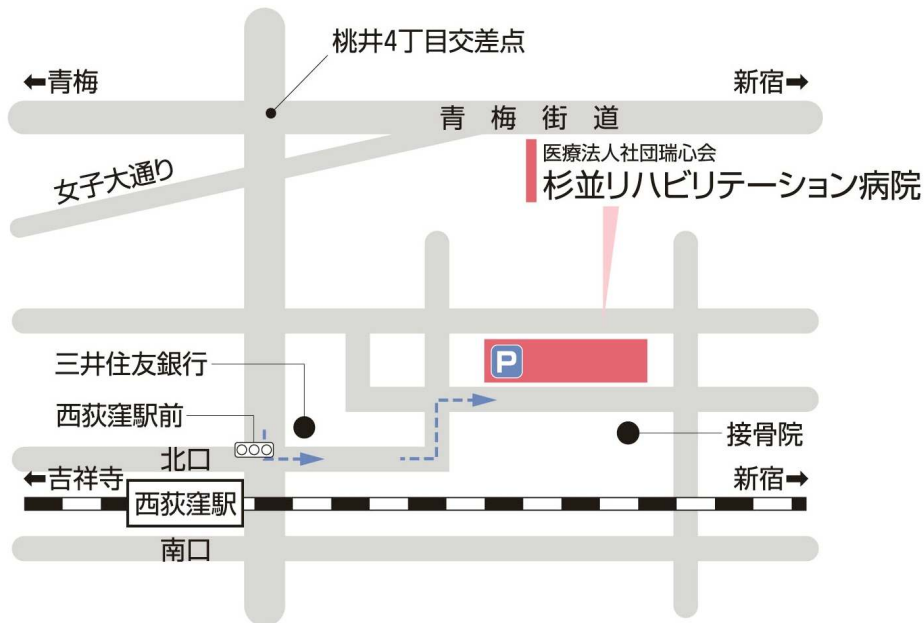
～ 当院の現況 ～

平成 26 年 7 月 平成 26 年 8 月 平成 26 年 9 月

稼働率	95.8%	94.6%	93.2%
入院延べ患者	2,999 人	2,961 人	2,825 人
在宅復帰率（直近 3 ヶ月：7～9 月）	-----		77.8%
重症患者割合（直近 6 ヶ月：4～9 月）	-----		37.4%
重症患者回復病棟改善割合（直近 6 ヶ月：4～9 月）	-----		43.6%

- * 重症患者・・・日常生活機能評価で 10 点以上の新規入院患者
- * 重症患者回復病棟改善・・・重症患者のうち 4 点以上の者が改善している割合

交通のご案内



- JR中央線・総武線 西荻窪駅下車 北口 徒歩2分
- 青梅街道 桃井4丁目交差点より西荻窪駅方向約1km
西荻窪駅前信号を左（一方通行）

病院概要

開 院	昭和 43 年 10 月
理 事 長	中村 康彦
院 長	門脇 親房
病 床 数	101 床（4 床室・個室）
診療科目	内科・リハビリテーション科
診療時間	毎週 月・火・水・木・金 9:00～12:30
発行責任者	門脇 親房
発 行	杉並リハビリテーション病院 総務課

医療法人社団 瑞心会 杉並リハビリテーション病院

〒167-0042 東京都杉並区西荻北2-5-5
 TEL.03-3396-3181 (代) FAX.03-3396-3186 (代)

<http://suginami-reha-tokyo.jp/>